

派遣先所属 福島県 県南建設事務所

氏 名 小川 弘 (おがわ ひろし)

今井 篤也 (いまい あつや)

派遣期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

(1) 派遣の実績及び派遣先の概要

埼玉県の土木技術職員の福島県への派遣については、平成23年4月から平成23年6月まで1ヶ月交替で県北建設事務所に、平成23年7月から平成24年3月まで3ヶ月交替で、平成24年4月から1年交替で県南建設事務所に配属されており、今回で10班目となります。

県南建設事務所の主な業務については、事務所の位置する白河市と周辺の4町4村（下図赤色区域）を管轄区域として、道路、河川の整備及び県営住宅の管理を行っています。

現在、当事務所における他の自治体からの派遣職員は、埼玉県からの私たち2人のみです。



(2) 派遣業務の内容

ア 復興公営住宅の整備 (担当：小川)

復興公営住宅とは、原子力災害により避難指示を受けている方が低廉な家賃で入居できる公営の住宅です。

福島県は、平成26年度から平成29年度までに復興公営住宅を4,890戸整備する計画を策定しており、当事務所においては、白河市内に40戸整備することとなっています。

震災から4年を経て、今も仮設住宅等で長期避難している方のために、一刻も早い整備が求められています。

当事務所では、復興公営住宅の整備を事務所全体で迅速に推進するため、「復興公営住宅整備促進チーム」を編成し、所長を筆頭に関係各課のメンバーが連携して業務に取り組んでいます。

その中での私の担当業務は、復興公営住宅の造成工事に関する設計、積算、工事監理及び建築工事との調整です。

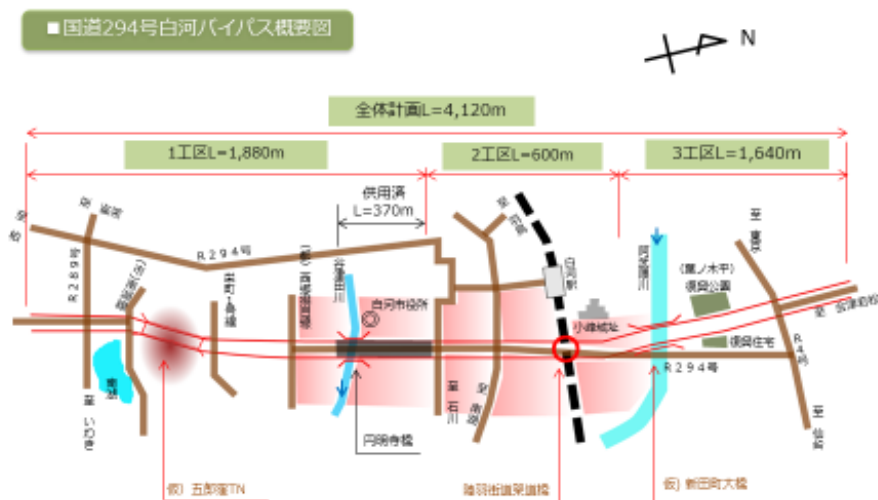
現在は、工事発注に向けて、本庁及び関係機関との協議と工事費積算の準備作業を行っています。

イ 国道294号白河バイパスの整備促進（担当：今井）

「国道294号白河バイパス」は、白河市の中心市街地の活性化・交通の利便性や防災機能の向上・物流の効率化等から、県南管内において最も重要とされているバイパスです。

平成7年度から事業に着手し、地域の方々とルート・整備手法等について協議を行ってきましたが、震災復興のシンボル事業として、平成26年度から本格的に用地買収に着手しました。

このバイパス事業を加速的に進め、復興の槌音（つちおと）を響かせる事が、県南地域の住民に将来への希望を与える事となることから、県南建設事務所では、バイパス事業に特化した専属チームを発足させました。今年度よりバイパスチームの一員として事業に携わり、唯一の技術職員という立場から、主に事業の調査・設計・調整、用地取得の交渉補助等を担当し、精力的に事業を進めているところです。



本人左2番目

(3) 実際に従事してからの感想

派遣前は、私たちは本当に役に立てるのか不安に思うことがありましたが、実際に従事してからは、福島県職員の方々から暖かい心遣いを頂き、大変恵まれた環境で仕事をしています。

また、福島県の各課所に派遣されている職員の意見を聴く会を設けていただき、とても感謝しています。

ところで、福島県の今年度の一般会計当初予算額は約1兆8994億円です。これは、埼玉県を超えており、福島県にとっては震災前の平成22年度に比べ2倍を超える規模となっています。このうち、震災及び原子力災害への対応分は全体の5割を超えています。予算の編成における限り、福島県は、いまだ復興の域を脱していないと感じられます。

このような状況から、全国の自治体による支援については、今後も続ける必要があると思います。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

先日、福島県の沿岸部の復旧状況を視察する機会がありました。

その際、原子力災害に伴う帰還困難区域を通過しました。区域に入ると、放射線量計の数値が跳ね上がりました。道路、家及び店舗等に人影はなく、ここで生活していた人たちからそのまま放棄されたような街並みでした。

海岸沿いには、瓦礫と自動車の残骸等が散乱している広大な空き地に、除染廃棄物の入ったフレコンパックがうず高く積み上げられていました。

福島第一原子力発電所を遠くに見ながら、ここで何が起きたのかを確認した日でした。

